

平成28年度 第5回松崎地区駅前活性化協議会

日 時 平成29年2月27日（月）16時30分～

場 所 湯梨浜町中央公民館 談話室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議事

○松崎駅前多世代地域交流拠点施設の整備計画について

4. その他

5. 閉 会

松崎地区駅前活性化協議会委員名簿

任期：平成28年10月20日～平成33年10月19日（5年間）

敬称略

	区分	役職	氏名	備考
1	公募		谷口 則子	
2	公募		高野 信雄	
3	公募		上治 百合子	
4	公募		本庄 正志	
5	区推薦		川崎 善和	松崎一区
6	区推薦		立木 肇	松崎二、三区
7	区推薦		岸田 雅也	松崎四、五区
8	区推薦		速水 敏人	旭区
9	区推薦		北村 和典	中興寺
10	委員推薦		遠藤 好子	
11	委員推薦		浅井 清伸	
12	委員推薦		清水 宗一	
13	湯梨浜町商工会		河本 定幸	
14	はわい温泉・東郷温泉旅館組合	副組合長	山柁 義人	
15	山陰合同銀行松崎支店	支店長	安部 雅人	
16	倉吉信用金庫東郷支店	支店長	河井 義治	

17	湯梨浜町	副町長（地方創生担当）	山根 孝幸	
18	湯梨浜町みらい創造室	室長	岩崎 正一郎	
19	湯梨浜町みらい創造室	安心生活担当係長	船木 宣孝	
20	湯梨浜町みらい創造室	地域おこし協力隊	新田 雅樹	
21	湯梨浜町みらい創造室	地域おこし協力隊	川崎 浩子	
22	湯梨浜町みらい創造室	地域おこし協力隊	中河 博子	
23	湯梨浜町みらい創造室	地域おこし協力隊	辺 美礼	
24	湯梨浜町みらい創造室	地域おこし協力隊	伊藤 晶子	

A-人	助け合いやコミュニティづくりに取り組むことが最も重要であることを話し合った。 地域（各区内・松崎地区内）でのつながりや支えあいをどのように創り出していくのか。
スーパー、 <u>旧Aコープ</u> のような、誰でも集まれるような場所を初めに作る。 <u>気軽に話し合い、情報交換できる場所</u> を作り楽しむ行事を。	
助け合いマップ、防災マップ作りなどをしながら人との支え合いの輪を広げていく。	
色々な同好会などにも声をかけ、横のつながりも伸ばしていくことが大切。	
現在休眠中の <u>エコープ</u> 店舗を活用する必要がある、 <u>買い物、カフェサロン、憩いの広場</u> 等の提供と利用促進をお願いする。	
地域内の交流だけでなく、地域外(観光客)の方とのふれあいの場の提供	
地域交流の場の設定。色々な形で集える機会を与えられる <u>癒しと交流場所</u> の提供。例えば <u>買い物、足湯、寿湯</u> などを活用した <u>休憩場所(事前注文による町内仕出し弁当の提供)</u> 、健康教室、囲碁、ウォーキングステーション、 <u>セルフサービスによる格安喫茶</u> など・・・。	
情報発信、交換の出来る場を設ける。ネットと実空間の両方をバランスよく活用したい。中心となって活動されている方を前面に出していくことで身近にあることを感じてもらいたい。	
インターネットや広告で地区で活躍されている方やお店等紹介をする。	
10.23地震時に松崎にある「カフェ梅や」のコミュニティが機能し避難活動に力を発揮。特に、多世代交流等の取組を行うことができるコミュニティづくりが重要。	
震災や大雪等の災害が発生すると地域の結束につながる。本経験を絶好のチャンスとし、区は勿論であるが、松崎地域の自主防災の取組の強化による支え合いづくりの構築が有効と考える。（特に、自主防災による近所付き合いの取組み）	
B-環境	昔ながらの名前や町並みが残っているが、人通りがほとんどないことを話し合った。 レトロ街や古い家並みを活用し人を呼び戻す仕掛けをどう創るのか。
古い町並み、古民家、特徴のある場所、また府来る変わった場所などを動画サイト、テレビなどで取り上げてもらう。	
レトロ街や古い家並みを案内する人(ボランティア)があれば人通りも多くなるように思う。	
松崎地区のレトロ感を出したマップ作り。	
商店の皆様は軒先あるいは入口に何か特徴のある目印等を掲げ頑張っている姿を訴える。	
民家の自宅前にはプランターの花、あるいは竹燈籠で夜は灯りをともす事を考える。	
<u>もてなしの場所</u> 、花壇の整備、 <u>松崎商店街内の足湯</u> の設置。	
廃業した商店の一般住宅の玄関周りに当時の「〇〇屋」の表示をする。現在でも下駄でもって表示しているが、一部だけであり、年代・地域の幅を広げてバージョンアップする。	
昭和の松崎の写真の掲示。現在しているものをバージョンアップ。	
現状のままではダメ。悪い意味での古い家並みを刷新したい。廃居は <u>観光や地域利用者や活性化目的のための空間</u> へ見直す。(起業者向け貸し店舗、駐車スペース、小公園、 <u>多目的貸出しスペース</u> 等)商店街と住宅が混在しているため、目標とする街のカタチをはっきりさせるべき。	
東郷池が季節ごとに表情を変えるのに合わせて街並みにも、四季折々の花など、並べてみてはどうか。そのお手伝いとして、子ども会に呼びかけても良いと思う。	
三八市はレトロな街並みのPRによい。ただし、10月中心であり、一年を通じて、土日に人が集まるようなイベントづくりを創る。	

C-イベント	<p>良いイベントがあるので、イベント回数を増やしたいと話し合った。 地域イベントを増やすために、住民主体で進めていくにはどうするのか。</p>
<p>イベントがあるが、主催者、関係者だけでなく、一般住民が参加しやすいように取り組む。地区内の各組織、団体に口コミや地区内放送を何回か繰り返し連絡する。</p>	
<p>松崎区長会とそれに賛同する同好会などが中心になればイベントがスムーズに進みやすいと思う。</p>	
<p>現在の三八市の継続と、さらに春から秋にかけての回数を増やす。また別のイベントとして春夏秋冬に1回住民主体（企画）のイベントを実施</p>	
<p>一過性のイベントでは地域の活性化には限界を感じる。まずイベント出店参加者(出店業者)にとって経済的メリット、そして、イベントのお客様のメリットがないと、イベントは継続しないしイベント拡大化しないと思う。</p>	
<p>これまで継続されてきたイベントをバージョンアップしていったほうがより効果的地域の活性化が図れると思います。水郷祭、神社奉納相撲、松崎神社例大祭、三八市、ベテラン卓球大会等。経済的メリットのないイベントをしても出店者には負担ばかりで継続しない。</p>	
<p>現状ではイベントを増やす＝協力者の負担が増える、という構図にあると思う。（毎回積極的に協力される方に頼らざると得ないと感じているから)例えば、まずは地区外の方に協力いただき、住民の人には参加してもらう所から始めてみる。そして将来的にイベント運営に協力してもらうような流れはどうか。いきなり協力をお願いしても前向きな人は少ないと思う。</p>	
<p>活動されているボランティアグループと協力してイベントを開催する。</p>	
<p>昨年区長会や公民館、三八市実行委員会などが連携し「まつざき元気まつり」を開催、住民主体のイベントで高評価。このようなイベントを定例的に年2回程度は開催、区長会主導のもと各組織が一層連携することが重要である。</p>	
D-自然景観	<p>何か一番といえるものが必要で、東郷池に関わる資源から一番を創出しようと話し合った。（モノ、場所、食など） 東郷池を活用した「みんなで一番といえるモノ」をどのように情報発信していくのか。</p>
<p>東郷湖一周ウォーキング、温泉、昭和の古い町、古民家、梨。テレビコマーシャルや旅行会社、動画サイトなどに掲示する。</p>	
<p>一番いいものは、東郷池の風情。一宮、日本一の梨どころなど、一番が集められればPRに繋がると思います。</p>	
<p>東郷池・しじみ・梨・松崎駅前・湖畔公園等を含め商工会・観光協会旅館組合・温泉組合・ホームページ等色々な媒体を利用して発信する。</p>	
<p>行ってみたいくなるような観光用動画の導入。</p>	
<p>東郷池景観を全体的に把握できる映像。ドローンを活用した魅力ある動画の製作。</p>	
<p>特色を生かした参加しやすいイベントを企画してみる。例えば①魚釣り大会：池の魚や水質の情報発信に繋がる。②写真大会：池の景色や場所の情報発信に繋がる。景品には温泉に関する得点がつくなど。</p>	
<p>「食べる」と言うことは、誰でも楽しみに思うこと。東郷池といえばしじみ、というイメージを大切にすることはどうか</p>	
<p>東郷池の魅力は住居の身近で見える夕日、その模様を観光協会等と連携しライブ発信。</p>	
<p>しじみブランドとし「鬼蜆」、更に情報発信。</p>	

E - 温泉	<p>東郷には良い温泉（源泉かけ流し）があるにもかかわらず、それを利用し切れていないと話し合った。</p> <p>温泉を利用する仕組みは。足湯の新しいハードは。その情報をどのように発信するのか。</p>
<p>先日の会議では「足湯」に入る人は地元の方で県外客には敬遠されているという話があったが、長くて大きいお客様用を駅前で作ってはどうか。</p>	
<p>場所的に足湯は松崎駅前もしくは湖畔公園に設置してほしい。</p>	
<p>現在ある七福神足湯のバージョンアップをする。</p>	
<p>観光協会とは違った町の情報を発信するホームページを立ち上げ、その中で温泉情報、ウォーキング情報、Aコープで開催されるイベント情報を発信する。生の情報を発信するため、HP担当を決め、最新情報を書き込む。</p>	
<p>羽合にある夢マートのようなものはできないか？その横に足湯があったり、温泉を汲む設備があるというのはどうか。夢マートのような施設がチラシを配れば情報発信となる。駅に近いといいと思う。(旧Aコープの活用案として提案したい)。</p>	
<p>日帰り温泉の施設があればよいと思う。</p>	
<p>温泉をPRしたい、駅周辺に足湯設備を新たに整備し、「池、駅、温泉」をテーマに住民や観光客の交流の場を提供。(日本一駅に近い源泉かけ流し足湯⇒駅そばに設置しては?)</p>	
F - スポーツ	<p>ノルディック・ウォーキングの良いコースがありながら、松崎として利用しきれていないと話し合った。</p> <p>スポーツと資源を組み合わせた新しい活用方法の開発と宣伝活動を考える。</p>
<p>東郷湖一周ウォーキング温泉宿泊セット、日帰りセット。ウォーキング名物料理宿泊セットを旅行会社へ宣伝。</p>	
<p>ノルディックウォークは日本で最初の公認コースであり特に冬を除く各季節に集中してイベントを実施すれば良いと思う。湖畔公園と足湯を絡ませた発着起点にすれば駅前もにぎやかになると思う。</p>	
<p>GG発祥の地であり、宿泊者が夕食前に気軽に利用し、各温泉地内に小さな大会が開ける会場の整備。3コース程度でよい。団体客に対してはミニGG大会を開催できるようにし、商品を用意し、湯梨浜温泉のサービスとして定着させる。</p>	
<p>宿泊者に対し毎週日曜日、早朝ウォーキング教室。インストラクターが観光説明しながら湖周のミニコースをウォーキングする。</p>	
<p>スポーツ利用者向けの駐車場などのスペースを松崎地区内に設けてみる。スポーツイベント、大会の案内に加えてもらうことで宣伝活動としていく。</p>	
<p>松崎のレトロな街並みをウォーキングルート化。</p>	

G - 施設	<p>松崎駅、湖畔公園が活用されていないことを話し合った。 地域の顔である松崎駅を中心にして未活用の施設をどのように活用するか。</p>
<p>松崎駅前、湖畔公園、水明荘にお客さま用の足湯を作りイベント会場にも使う。</p>	
<p>湖畔公園にもひとつ足湯を作ってみる。湖畔は風景もよく結構人気が出るのでは。</p>	
<p>松崎駅前、と湖畔公園についてはF・Dで申し上げたが、活用方法はいろいろあるが、悩みは駐車場がない事がネックである。</p>	
<p>通勤、通学だけの駅ではなく、<u>人の集るコミュニティ的な場所</u>、待合室などを使った<u>農作物の販売</u>など。</p>	
<p><u>Aコープの利用</u>(A参照)</p>	
<p><u>地域住民の交流の場、癒しの場、買い物の場</u>を設置。週3回程度の地域高齢者が出店する定期的朝市。寿湯を活用した高齢者癒しの場と交流の場の提供。昼食は松崎仕出し業者による昼食弁当(事前予約)。</p>	
<p>地域外の方(観光客、ウォーカー)とのふれあい、交流の場。ウォーキングステーション、観光情報発信機能を持たせる。</p>	
<p>(E-温泉同様)空間を作れないか？湖畔公園もあり方や設備を目的を持って見直したい。(立ち寄りにくい足湯や温泉卵を利用したいと思わない。池側が危険・・・)⇒<u>屋根のある座れる足湯</u>へ、一区画を駐車場へ。池川、道路側の安全対策を。</p>	
<p>松崎駅舎、駅横の施設等を改修、テナント利用等の検討。</p>	
<p>湖畔公園の足湯に屋根取り付け、鯉(恋)の足湯としてPR。</p>	
J - 人口減少	<p>人口減少を食い止めるには仕事。観光事業や農業で仕事を創りだしたいと話し合った。 若い人に残ってもらうには地元への愛着が大切。若者に地元への愛着を持ってもらうにはどうすればいいか。(例：イベントへの参画など)</p>
<p>考えがまとまらないが、役場、地域おこし協力隊、まちづくり株式会社などにより中部地区の減少の対策。若者が働く場所を中部地区、地元の企業に協力や企業誘致運動を。</p>	
<p>原点に戻り若い人たちの意見を聞く</p>	
<p>やはり地区ごとのつながりを持つ事が良いと思う。向こう三軒両隣の合言葉のように親しみが出来れば松崎地区として盛り上がると思う。</p>	
<p>親しみが持てれば多くの方のつながりができ、色々なイベントも活性化できると思う。若者が地元への愛着を感じる事は地元へ定住してこそ分かる事で、まずは住める条件を整えるべきと思う。</p>	
<p>経済的保障がなければ若者の定住は困難。<u>コープ跡地中心として雇用が生まれる施設</u>にするべき。<u>Aコープで買い物機能</u>を持たせ、<u>地域高齢者の生産した農産物販売市を毎日のように開き</u>、販売員として雇用をはかる。交流機能、情報発信機能の担当も兼務する。</p>	
<p>その前に仕事があればいいと言う単純な話ではないと思う。収入が少なければ仕事があっても他を探すと思う。特に若い人ならなおさら。親世代が観光や農業、自営業で地元を盛り上げる姿を見て、学生世代が将来の選択肢として考えてもらうのはどうか。松崎地区レベルの活動だけでは、若い人に地元への愛着を持ってもらうのは難しいと思う。また、仕事・生活があって、その中で愛着が生まれてくると思う。若い人へ観光事業や農業の魅力をPRしてみてもいい？(インターン体験など)</p>	
<p>松崎周辺を企業誘致等による雇用対策は難しい。ただ、松崎をより一層活性化することが、若者にチャレンジ機会を、自分も何かできるのではないかといい気持ちに。</p>	
<p>地元の良さを知ることが大切。地元の良いところがもっと身近にあり、誰にでも目にすることができ、知っている人が伝えていく場があると思う。</p>	

K-買い物	<p>買い物をすることは人と人が接点を持つことであること、また新しい人が住める環境を整えることも必要と話し合った。</p> <p>買い物や交流が出来る施設や、新しい人が移住してこれる住いを整備するにはどうするか。</p>
<p>旧Aコープ、スーパーなどを復活させ、<u>買い物、交流をする場所</u>を早急に作りだしたい。また、<u>地産地消で地元商品販売</u>を。</p>	
<p>例えばAコープの一角に松崎地区活性化エリアの立体図を置き、ここに何を置いたら案内がスムーズになるのか、池の魅力を引き出せるのか、観光客に喜ばれるのか、実際に基づいたアイデアをもらう。何年か後にアイデアを実現できた立体地図を松崎駅に展示し、観光マップとして利用してもらう。</p>	
<p>既存の施設を使用し、<u>夢マートのような方式で販売</u>できたらと思う。また<u>色々な地域から色々な物を提供して販売</u>する事も良いと思う。</p>	
<p>若い移住者には、働く環境がなければ、定住することは難しい。起業するにしても現在の松崎の現状では難しい。雇用の場の提供ができる環境が必要。</p>	
<p>空き家の活用により、住まいの提供、企業する場合の場所の提供をしてはどうか。</p>	
<p>(E-温泉同様)<u>夢マートのような施設に旧Aコープがなれば良い</u>と思う。<u>周辺も整備し、近くの人から町内の人まで訪れやすい環境にする</u>。イベントや<u>出店は地元</u>にこだわらず、<u>やってくれる人を募ってみる</u>。</p>	
<p>旭区は新しい家が増えてきた。住めない住居は更地にしてみてもどうか。</p>	
<p>・<u>旧Aコープを活用し、野菜、生鮮食料品等の買い物やカフェ交流の行える拠点</u>とする。</p>	
L-1 既存施設の活用	<p>Aコープは空き店舗になってしまったが、何とか活用できないだろうか話し合った。旧Aコープの活用方法とは。</p>
<p>まちづくり株式会社、地域おこし協力隊が中心になって再建進めてもらいたい</p>	
<p>Aコープがなくなり困ったが、1週間に1回倉吉に買い物に行くことで何とか食料を賄っている。毎日の営業では経費もかかるので、<u>最初は土日営業で様子を見、採算が取れるなら事業を広げていく</u>。<u>生鮮食品をおいて欲しい</u>。</p>	
<p>この<u>建物の有効活用</u>こそ、人の集まる最大の場所である。この建物が利用できないと駅前活性化事業としては成功は難しいと思う。</p>	
<p>Aコープの活用は松崎活性化するのに大事な拠点と判断します。この拠点のあるべきランドデザイン・コンセプトを十分に議論し、具体的内容に入るべきだと思います。⇒<u>地域住民の買い物、交流、癒しの場</u>、<u>地域外の方(ウォーカー)には地域住民とふれあいの場、ウォーキング情報発信基地、地域物産品購入の場</u>。</p>	
<p><u>地元特産品の発信拠点</u>にできないか? ネットを利用し、通信販売を行う。倉庫としてのキャパも十分ある。合わせて<u>近所の人</u>も立ち寄って利用することができる。</p>	
<p>地区の方に協力していただき、<u>夢マートのような店</u>ができればと思う。</p>	
<p>・<u>旧Aコープを活用し、ある程度の買い物や交流の拠点</u>とする。K-買い物に同じ。</p>	

L-2 既存施設の活用	<p>地区の空き家・空き店舗が活用されていないと話し合った。</p> <p>空き家・空き店舗の活用方法とは。</p>
<p>空き店舗、空き家、古民家など町、まちづくり株式会社などの支援、協力で進めてもらいたい。</p>	
<p>空き家が並んでいる場合、イベントなどのとき続けて利用できるというのもひとつの方法だと思う</p>	
<p>空き店舗および空き家については現在どのような管理をされているかどこかで一括管理し、色々な条件をはっきり明記し、いつでも閲覧できるようにして必要な方が見れるようにして欲しい。</p>	
<p>所有者との賃貸、売買などの交渉は・・・。</p>	
<p>空き家については移住者の住居、空き店舗については、起業移住者の店舗、観光客、ウォーカーの誘客のための休憩所販売店、地域住民の交流の場。</p>	
<p>見た目の悪い物はなくして他人に譲るのが良い。使える物は、三八市などのイベントで開放し、立ち寄った人に利用できることをアピールしてみる。空き家、空き店舗の見学ツアーを企画しても良い。(地元に住む人が活用するほどの余裕がないと思うので)。</p>	
<p>・行政の手でなく、柔軟な民間（住民）の手による「松崎空家バンク、空き店舗」登録制度を設立し運用する。</p>	
N-産業、商業	<p>湯梨浜には梨やしじみがあるが、ばらばらに情報発信している。天女伝説も作って終わりの感じがすると話し合った。</p> <p>いろいろな特徴を「つなぐ」にはどうするのか、どのように発展させるのか。</p>
<p>町、商工会、JA各種グループ、団体組織などの幹部一同が集り情報を共有発信する。</p>	
<p>駅前あたりで、しじみ・梨・その他試食できるコーナーを作り格安代金で販売したらよいと思う。またそのような場所があることをネットで発信したらどうか</p>	
<p>各団体、組織でこれまで地域づくりのための企画・商品作りをしているが、これまで検討されてきた素材を選択し磨きかける時期だと思えます。これらを「つなぐ」機関として湯梨浜まちづくり株式会社ができないか。</p>	
<p>良い提案が思いつかない。この協議会は協議会なりに的を絞って考えてみてはどうか。</p>	
<p>・役場、商工会、観光協会、JA等が連携し「湯梨浜キャッチフレーズ」を作り、一元的に情報発信する。(湯梨浜王国⇒大山王国のようなイメージ)</p>	
O-まちづくりの方向性	<p>まちにはいいもの（人・モノ）がありながら、宝の持ち腐れのような気がする」と話し合った。</p>
<p>住民としてできることから行動しないと残り3年余りしかない期間であり、本当に住民に見えることをしないと不信感が出て来るような気がする。現在A～O迄の項目で一番急がれること、あるいは優先順位をつけて実施していく必要があると思う。</p>	
<p>まちづくりには、選択と集中、継続性が必要</p>	
<p>よどやのような情報発信できる拠点が案内や活動を企画し、それをきっかけにして住民への取り組みを促していくのがいいと思う。いきなりやろうとしても住民は何をしていいのか困るだけだと思う。</p>	
<p>今、行っているような取り組みを発信し、住民みんなの取り組みであることを知っていただく。</p>	
<p>松崎一斉でクリーンアップ運動に取り組んでおり、一層のPR。また、クリーンアップの方法を工夫し、住民の一体感を築き上げる。</p>	

ご意見欄

イベント・行事に参加する人が少なくなりつつある。高齢化のため、年金生活で金銭面、身体面、精神面にも余裕がなくなり老後のことを考える人が多くなり参加できない。

【観光ガイドのイメージ】

バス・車で来た人はまず松崎駅・周辺に下りる。そこで駅舎前に観光・風物スポーツ案内所(情報源)はここに
あります(旧Aコープ)の看板を置く。観光・スポーツの前に身体を慣らしよい知恵がコンコン湧くように良質な
成分の足湯につかってくださいと足湯のPRをする。旧Aコープにはガイド(ボランティア)がいて

①ウォーキングならAコース、Bコース、Cコースなど紹介。写真スポットはここここ。夕日の絶景はこの位置など。

②燕趙園はここ。スポットはここ。チャイナドレスも着れますよなど。

③魚釣りはここ。エサもあります、など。

それぞれのコースを満喫した観光客には帰りも足湯を利用してもらい、お土産はほっかほっかな足とゆで卵はどうでしょう?と宣伝する。

案内所には東郷池の四季の風情写真・梨・三八市・水郷祭などの写真も展示しPRする。パンフレットには温泉成分、魚介類、特産物など紹介する。安産の神様もポイントになるのでは?

最後に観光後(帰路時)今日の感想が聞けたら良いと思う。

温泉、ウォーキング等、地区外から来られた方にアンケート等協力いただき、声を聞くことも大切だと思います。

松崎をどのような街にしたいか、キャッチフレーズをつくる。

松崎駅前活性化に取り組んだ場合、駐車場問題の解決が必要。

生涯活躍のまちの具体的な多世代交流拠点（松崎駅前）の整備計画案

※計画案であり、確定したものではありません。

■元気ぶらりん館（仮称）の計画内容

入口部分に受付を設置し、ふれあいルーム（陽だまり多目的スペース）、コミュニティカフェ（ぶらりんカフェ）、マルシェ（買い物の場）、カラオケ道場等の諸室を利用する。

■総合相談センター（仮称）の計画内容

移住定住の促進や空き家対策、住民交流の場として、居住者や移住者の受け皿となる相談の場として地域拠点の機能を果たす。また、職業相談所やまちの保健室としての機能を担い、地域活動の場として事業推進する。

■お試し住宅の計画内容

総合相談センターと連携して、湯梨浜町への移住の入口として、お試しで宿泊し、湯梨浜を体感していただく。

